

自治体 あいちの仲間

発行所 自治労連愛知県本部 名古屋市北区柳原三丁目7番8号
U R L http://www.jaichi.jp TEL 052 916-2251
Eメール info@jaichi.jp FAX 052 916-2308

2005.8.10
No.905

発行責任者 梅野敏基 定価 10円
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

愛知の最賃審議会
688円を答申

中央最賃の目安額を上回り
5円引上げに



公立尾陽病院 小児科入院と産科の存続を

突然の産科等の廃止提案
公立尾陽病院の当局は、小児科の常勤医師が今年9月末で配置できなくなることを理由に、本年10月1日から小児科入院業務と産科の廃止方針を明らかにしました。

公立尾陽病院は甚目寺、大治、七宝、美和町で運営する（新川町は合併で離脱）公立病院で、海部、西春日井地域の中核医療を担っています。

公立尾陽病院職員労働組合は、稲沢市民病院が産科を廃止したため、尾張西部地区の公立病院で「産婦人科」を設置しているのは、尾陽病院の他、津島市民病院、海南病院（弥富町）、

住民に必要な医療提供 今こそ役割発揮しよう

尾西病院にとどまり、その役割は高まってきており、地域医療を守ることと職場を守る点で職場での議論を

住民との懇談会を始めて、産科等の存続に向け

8月4日には、組合も参加して、公立尾陽病院を良くし、小児科入院業務と産科の存続を求める会（略称：尾陽病院を良くする会）を結成しました。



8月4日に住民と組合も参加して結成総会

住民との懇談会を始めて行いました。そこでは住民から「産科は継続して欲しい」「地域の病院を良くしたい」「病院の職員が住民と懇談する場は大切」「患者にも親切に接してほしい」「地域で一緒に運動を」など病院に対する意見が出

8月4日には、組合も参加して、公立尾陽病院を良くし、小児科入院業務と産科の存続を求める会（略称：尾陽病院を良くする会）を結成しました。

会として、病院の管理者に対して、①小児科の入院業務と産科を存続すること、②小児科の医師を確保すること、③地域医療に責任を持つよう努力することの3点で要請署名をす

中央最賃の目安額にとらわれず Aランク愛知にふさわしい引上げを



683分のハンスト県庁前で実施

8月5日、愛知の最低賃金審議会は、最賃額を5円引き上げ688円とする答申を愛知労働局長に行いました。中央最低賃金審議会の3円引き上げの目安額を上回る5円の引き上げは、私たちが主張してきた「中

央最賃の目安額にとらわれず、Aランクの愛知にふさわしい引き上げを」の要求に対して、たった2円です。が、昨年に続いて愛知独自の積み上げの答申を打ち出すことは評価できません。2月の最低賃金生活体験を皮切りに、愛知県本部は、夏季闘争の大きな柱である人事院勧告の「給与構造の見直しを許さない」たたかいと結びつけて、683分のハンストをはじめ、署名、宣伝行動、集会など、愛労連・公務共闘に結集し猛暑の中での取組みを成功させてきました。引き続き、「最低限度の生活を営む権利」を求め、当面、「Aランク

にふさわしい改善」を勝ち取るために取組みを強める必要があります。

8月12日頃に出される人事院勧告では、0.5%程度のマイナス勧告と給与構造の見直しとあわせて、ダブルマイナスが想定されています。地域給の導入で最

めるとしてしています。また、組合は会と一緒に病院管理者や病院長などの懇談に参加しながら、共同の取り組みをすすめていく予定です。

宮前啓子委員長は、「産科が廃止されれば、尾張西部地区の広大な範囲で産科が受けられなくなり、住民

夫の過労死は「公務外」と認定

これからはたたかい組合の支援を



退職した人なら話が聞けると思い、電話をしても取り次いで貰えなかったり、会う約束をしてもその場所に来て貰えなかった。真実は一つ、間違ったことは言っていない。隠そうとしている職員は上からの締め付けがあると思うし、組合がないからだと思う。これから大変だけど頑張っていきたい。ぜひ支援する会へ入会をお願いしたい。

（女性部定期大会で訴える自治体一般・倉田利奈さん）

が安心してこの地域で暮らせ、子どもを産み育てることが出来なくなります。住民のために必要な医療を提供する公立尾陽病院の役割を發揮するため、小児科の入院業務と産科は必要です。ぜひ私たちの趣旨を理解され、署名運動にご協力を」と訴えています。

